

『一心千里』

永田 隆一

走って見れば、
見えてくる



第108回

は米国の圧勝です。

筆者は考えました。

「日本にとつて、これは好機かもしれない」。やはり、そうでした。中国が米国から調達している代用品を日本から購入しようと動き出しました。

ところがです。中国はとも巧みな交渉を仕掛けてきます。複数社へ依頼

技術革新(イノベーション)は大切です。クラ

イアントと、クライアンのお客様ニーズに合わせるために、技術とコストの両輪で新しい価値を追加する開発はハードルが高いと感じます。どうしても保有する技術、保有する知識のなかで考え

てしまうからであります。

の仮想空間を用意された世界では遊べるのであ

りませんが、イノベーションは現実の枠や境界の外にあります。そして、妄想や空想も現実の枠の外にあると考えます。

情報・データの世界でイノベーションを次々と出し続ける「GAFAM」(グーグル、アマゾン、フェイスブック、アップル)。「妄想・空想会議」を金曜日の午後、1時間開催します。「飛び抜けた妄想に300万円、ありえない空想に100万円

とカウンターで長く話しました。

「この本に、重要なことを優先的にやらなくてはいけない。そう書いてあります」「永田ちゃん、突然難しい話題はやめてよ。僕は日本の生活がいやで、人間関係に疲れて、逃げるようにここに来たんだ。人生で重要なこと、それを考えない人生を運んだんだ」「すみません」「いいんだ、大事なことが。料理の味と月目だけは磨いてきた自信があるね」「月目とは何ですか」「笑顔で一番大切なのは目なんだ。笑う時、目を少し細くするだろう、そして目じりを下げるんだ。クレセントムーン、三日月だよ。アメリカ人の笑顔にも負けないぜ。永田ちゃんも月目だぜ」「ありがと(う)ございませ

米シリコンバレーのマ

ウンテンビューにカストロという通りがあります。とてもきれいな街並みです。そこに筆者お気に入りのブックストアがあります。1992年に『7 Habits of Highly Effective People』という

題名の訴求力は大きへ、買い求めました。96年に日本でも翻訳本が出版されてベストセラーになった『7つの習慣』です。そのなかに書かれてある「人間は緊急な仕事に忙殺されて、あとという間に時間が過ぎてしまふ。最も重要なものは、重要だげど緊急でないことだ」

人生で最も重要なことは

急がなくて良いけど重要なこと

な(こと)に当てよう」と決めました。その時、34歳から、人生で重要なこととは何だろうと広く深く考えるようになります。

米国と中国のつばぜり

合いは見ものです。「つばぜり合」は、打ち合わせた剣をつばで受け止めたまま互いに押し合

内での製造禁止を発令します。これを受けて数日後、トランプ大統領は中国から米国へ輸入する半導体製品を含めた800項目へ25%の関税を課すと発令しました。

現在、中国製品2500億ドルへ関税を準備した米国に対して、600億ドルの報復関税を準備した中国。第一ラウンド

して競わせます。特需とばかり、日本企業は値段の叩き合いをして疲弊しています。

日本の真面目で謙虚な

経営者は良いと思いません。しかし、米国・中国の利益を守ることに徹する、真面目でない、謙虚でない経営者はもっと良いと思ってしまう。

有効な方法に「妄想・空想」があります。そのなかから3項目をピックアップして1カ月検討を重ねる。時として、大きなブレイクスルーにつながる

ことがあります。

しかし、最近の若い人は妄想・空想できない人が多いことに驚きます。スマートフォンやパソコ

マウンテンビューのその本屋から、北へすぐのところにある日本料理屋「YAKKO」もお気に入りのお店で、よく通いました。日本に10年帰国

していないという料理長

とカウンターで長く話しました。